

1. 単元名 作品の魅力を伝える読書案内ムービーを作ろう
 ～文章の構成や展開、表現の仕方について、自分の考えをまとめる～

2. 単元の概要

本単元は、「文章全体と部分の関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容理解に役立てること」（「読むこと」イ）ならびに「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること」（「読むこと」ウ）に重点を置き、生徒の実態に沿って具現化したものである。本単元では、第一次世界大戦中に敵同士が一緒にクリスマスを祝ったという史実（クリスマス休戦）を基に描かれた「世界で一番の贈り物」（マイケル・モーパーゴ 作 佐藤見果夢 訳）を教材に、書き手が史実を物語として表現した意図を考えながら作品の魅力や価値を自分なりに見出し、それを、読書案内を目的としたショートムービーとして表現する学習を行った。ムービーの作成にはタブレットを使用した。ムービーの完成後には上映会を行い、作成意図について説明し合う時間を設けた。

作品の魅力を伝える読書案内ムービーを作る活動
 「世界で一番の贈り物」

～目標～

- ・描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることができる。（読むこと イ）
- ・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。（読むこと ウ）

学習活動	
第1次 初読の感想を書く	(個人)
第2次 ムービーを作成する	(グループ)
ムービーの上映会	
第3次 ムービーの作成意図を説明し合う	(自由交流)
第4次 自分の読みをまとめる	(個人)

～学習活動～
 タブレットを使って読書案内を目的としたムービーを作成する。完成後には上映会を行い、作成意図について説明し合う。

単元の評価規準を、以下のように設定した。

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①物語について感想を持ち、ムービーの作成や上映会での交流を通して考えを深めようとしている。	①ムービーを作成するために、描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解を深めている。（イ） ②文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。（ウ）	①相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いあることを理解することができる。（1）イ（オ）

また、指導と評価の計画は、以下の通りである。

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学習の見通しをもつ。</div> ○学習のねらいや進め方をつかむ。【全体】 ○作品について知る。【全体】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">文章を通読し、話の展開や内容の大体をつかむ。</div> ○作品を通読し、感想を交流する。【グループ】	・学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し、学習に見通しをもたせる。 ・作品の基になっている史実（クリスマス休戦）について、写真を示しながら説明する。 ・印象に残ったことや疑問に感じることを中心に交流させる。	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> 【国語への関心・意欲・態度】 ① ワークシート </div>

2	グループでムービーを作成する。		
3 4	<p>○「桃太郎」を題材に作成された複数のムービーを鑑賞し、取り上げた場面や順番などが違う理由について話し合う。 【全体】</p> <p>○タブレットの使い方やムービーを作成する上での条件や手順について説明を聞く。【全体】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品をどう読むかによって切り取る場面や引用する言葉、構成の仕方などに違いが生まれることに気付かせるため、誰もが知っているであろう「桃太郎」を題材としたムービーを複数パターン準備しておく。 画像（本作品の絵本のイラストを活用）やBGMなどの基本情報が入ったタブレットを、各グループに一台ずつ配付する。 	
<p>《条件》</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生時間は1分35秒以内とする。 スライドの数は20枚以内とする。 スライドの比率は、5（画像）：5（言葉）を基本とする。 本文の引用を必ず入れる。 最後のスライドには、作品全体を貫くテーマが効果的に伝わるような言葉を入れる。 タイトル、作者名、出版社名を入れる。 			
<p>《作成の主な手順》 ※順不同</p> <p>手順1 作品全体を貫くテーマについて検討する。</p> <p>手順2 どの場面、人物、言動、ものなどを中心に作成するかを検討する。 （作品全体を貫くテーマとの関連）</p> <p>手順3 使用する画像や、スライドとスライドの間に挿入する言葉（本文の引用も含む）を検討する。</p> <p>手順4 全体の構成を検討する。</p> <p>手順5 最後のスライドに載せる言葉を検討する。</p>			
5 6	<p>○タブレットを使って、ムービーを作成する。 【4人グループ】</p> <p>○2グループ合同で試写会をする。【2グループ】</p> <p>○振り返りを書き、交流する。【個人→全体】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品全体を貫くテーマと、選んだ画像や引用する言葉との関係性を明らかにしながらムービーを作成させる。 作品全体を貫くテーマのとらえに共通性が見られるグループと試写会をさせることで、使用した画像や言葉を選んだ理由や、構成の意図などを明確にできるようにする。 「何についてどのような議論になったのか」、また、その際、「本文中のどんなところに着目したか」を、毎時、終末時に振り返らせる。振り返りを全体で共有する中で、構成や展開、表現の仕方に表れた書き手の意図に目を向けさせていく。 	<p>【読む能力】② 観察</p>
5 6	<p>ムービーの上映会を行い、作成意図を説明し合う。</p> <p>○ムービーを上映し、作成意図について説明し合う。【全体→自由交流】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上映前に、グループで考えた作品全体を貫くテーマについて簡単に説明させる。 3グループが上映した後に、疑問に思ったこ 	<p>【読む能力】 ②③ 観察 ワークシート</p>

		とや分からなかったことなどについて自由に質問にいく時間を設ける。それを3回繰り返す。	
7	自分の読みをまとめる。 ○作品を再読し、最終的な自分の読みをまとめる。 【個】	・構成や展開などに表れている書き手の意図を踏まえながら、自分が考える作品の魅力をまとめさせる。	【読む能力】③ ワークシート 【言語についての知識・理解・技能】④ ワークシート

3. 指導にあたって

(1) 本単元で目指す生徒の姿

自分が考えた作品全体を貫くテーマに基づいて、描写の効果や登場人物の言動の意味を解釈するとともに、多様な解釈の仕方や考え方に触れ、自分の読みを深めることができる生徒。

(2) 重視した資質・能力と、発揮させるための手立て

本単元で重視して育てる資質・能力は、「場に応じて判断基準をつくる力」と「学びを評価し、課題を見つける力」であった。それを発揮させる手立ては以下の通りである。

「場に応じて判断基準をつくる力」を発揮させる手立てとして、たとえば、グループごとにムービーの構想を立てる活動において、作品全体を貫くテーマとの関連を踏まえながら、使用する画像やスライドとスライドの間に挿入する言葉などについて検討する場面（第2・3・4時）や、ムービーの上映会において多様な読み方を知ることにより、自分の読みを再考する場面（第7時）を設定した。

「学びを評価し、課題を見つける力」を発揮させる手立てとして、第2時から第6時までの終末時に、「何についてどのような議論になったのか」、また、その際、「本文中のどんなところに着目したか」を振り返らせ、学びの変容や新たに生じた疑問などを自覚できるようにした。

本研究とは直接的な関係はないが、本単元では、グループ活動や自由交流においても個々の生徒の学習状況を把握できるよう、以下のような評価計画の作成を通し、評価時期・評価材料・評価方法の明確化と焦点化にも取り組んだ。

時	学習活動	評価規準	評価方法
第1時	初読の感想を書く。 (個人)		なし
第2時 第3時 第4時 第5時	1 ムービーを作成する。(グループ) ムービーの上映会 2 ムービーの作成意図を説明し合う。 (自由交流)	①ムービーを作成するために、描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解を深めている。 (読むこと イ)	【評価材料1】観察 ・「おおむね満足できる」状況(B)描写の効果、登場人物の言動の意味について考えているかを確認する。 ・「十分満足できる」状況(A)作品全体を貫くテーマとの関係を踏まえながら考えているかを確認する。
第6時	3 自分の読みをまとめる。 (個人)	②文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 (読むこと ウ)	【評価材料2】ワークシート ・「おおむね満足できる」状況(B)根拠を明確にしながらかの考えをまとめているかを確認する。 ・「十分満足できる」状況(A)書き手の意図を踏まえながらかの考えをまとめているかを確認する。

グループ活動や自由交流においても、個々の生徒の学習状況を把握することができるように、評価の規準をより具体化した。

成果物(ムービー)では個々の学習状況を把握しきれないため、最後のまとめの文章を評価材料として用いた。

4. 本時の学習活動（2／7）

（1）目標

全体の構成や展開に着目して作品全体を貫くテーマを捉え、そのテーマとの関係を明らかにしながらムービーに使用する画像や引用する言葉を選ぶことができる。

（2）展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
課題 作品を貫くテーマを明確にして、読書案内ムービーを作成しよう。		
<p>1 本時の課題と学習の流れを確認する。 【全体】</p> <p>2 「桃太郎」を題材に作成された複数のムービーを鑑賞し、取り上げた場面や順番などが違う理由について話し合う。 【全体】</p> <p>3 タブレットの使い方やムービーを作成する上での条件や手順について説明を聞く。 【全体】</p> <p>4 タブレットを使ってムービーを作成する。 【グループ】</p> <p>5 振り返りを下記交流する。 【個人→全体】</p>	<p>○前時に書いた感想を振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品をどう読むかによって切り取る場面や引用する言葉、構成の仕方などに違いが生まれることに気付かせるため、誰もが知っているであろう「桃太郎」を題材としたムービーを作成する。 画像（本作品の絵本のイラストを活用）やBGMなどの基本情報が入ったタブレットを、各グループに一台ずつ配付する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《条件》</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生時間は1分35秒以内とする。 スライドの数は20枚以内とする。 スライドの比率は、5（画像）：5（言葉）を基本とする。 本文の引用を必ず入れる。 最後のスライドには、作品全体を貫くテーマが効果的に伝わるような言葉を入れる。 タイトル、作者名、出版社名を入れる。 </div> <p>※「手順」は「指導と評価の計画」を参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品全体を貫くテーマと、選んだ画像や引用する言葉との関係性を明らかにしながらムービーを作成させる。 「何についてどのような議論になったか」、また、その際、「本文中のどんな点に着目したか」をノートに記入させる。 振り返りを共有する中で、構成や展開、表現の仕方に表れた書き手の意図に目を向けさせていく。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>評価場面</p> <p>〈評価規準〉 〔読む能力〕②</p> <p>〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ活動の様子の観察 ノートの記述 </div> <p>〈Bの生徒の姿〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体の構成や展開に着目して作品全体を貫くテーマを捉え、そのテーマとの関係を明らかにしながらムービーに使用する画像や引用する言葉を選ぶことができる。 <p>〈Cの生徒への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品全体を貫くテーマを明らかにできていない生徒には、読み手として本文中のどの場面に心惹かれたか、またそう感じたのはなぜだと思いかと問うことで、作品全体を貫くテーマを捉えるには、読み手として感じたことや考えたことが手がかりになることを伝える。

5. 授業を終えて

実践を通しての成果 (○) と課題 (▲) は以下の通りである。

○【場に応じて判断基準をつくる力】

実際の授業では、描写の効果や登場人物の言動の意味について自ら問いをもち、ムービーに使用する画像や言葉を吟味したり、解釈の異なる他の生徒に意欲的に質問したりする姿が見られた。その要因として「読書案内ムービーの作成」という言語活動が生徒にとって魅力的であったこと、また何のために何をすればよいか が明確であったことなどが考えられる。

また、ムービーを作成している際に、ある生徒が以下のような発言をした。

「兵士の様子を強調しすぎると『平和は大事』という単純なメッセージになってしまう。うちのグループで考えたテーマは『戦争が奪うもの、奪えないもの』なんだから、もっと最後の場面の「コニー」に焦点を当てて作ったほうがいいんじゃない？」

この発言からは、授業者がねらったとおり、自分たちが考えた作品全体を貫くテーマを判断基準とし、ムービーに取り上げる場面や人物を選ぼうとしていることが分かる。これは、作品全体と部分との関係を踏まえながら、それぞれの場面や登場人物の言動の意味を理解している姿ともいえる。このような姿が生まれた要因として、読書案内を目的としたムービーを作成するために必要な要素と、本単元を通して育成したい資質・能力との整合がとれていたことなどが考えられる。

これまでは、言語活動の抽象度が高く、生徒が課題意識や見通しをもちにくいいため、途中で授業者の誘導が必要になったり、教材の特性と言語活動が合致しておらず、重点をおいた資質・能力の育成に結びつかなかったりしたことも多かったが、本実践では生徒自らが自由に学習過程を行き来しながら思考・判断・表現を繰り返している姿が多く見られたことから、一定の成果はあったと考えている。

また、ムービーを構想する際の補助シートとして授業者が作成した「構想シート」を各グループに一枚ずつ配付したが、使用するかどうかも含め、活用の仕方は自由とした。すると、「構想シート」は使用せず、**資料1**のような整理を自分のノートにしている生徒がいた。登場人物の描写や言動の重要度を整理することで、作品を貫くテーマを「平和」であると確定したものと考えられる。これは、授業者が準備した「構想シート」では叶わなかった整理の仕方である。これまででもできるだけ生徒の思考の順序や方法を限定しないよう心がけてきたが、あらためて、ワークシートの枠の固定によって整理の仕方を限定しないことで、生徒の思考は授業者の想定を超える深まりを見せ、また発想は広がっていくのだと感じた。

資料1

▲【学びを評価し、課題を見つける力】

資料2は、「何についてどのような議論になったか」、また、その際、「本文中のどんな点に着目したか」を、毎時、ノートに記入させたものである。この方法は、自分自身の学習過程や読みが深まっていく過程を単元末に振り返ることができると考えて実施した。確かに、確かに、学びの変容や新たに見つかった疑問などを自覚させる手段の一つではあると思うが、毎時間書かせるのは負担感も大きく、生徒にとって必要なものであったとは言い切れない。生徒自身が必要感をもつ振り返りの方法を検討していく必要がある。

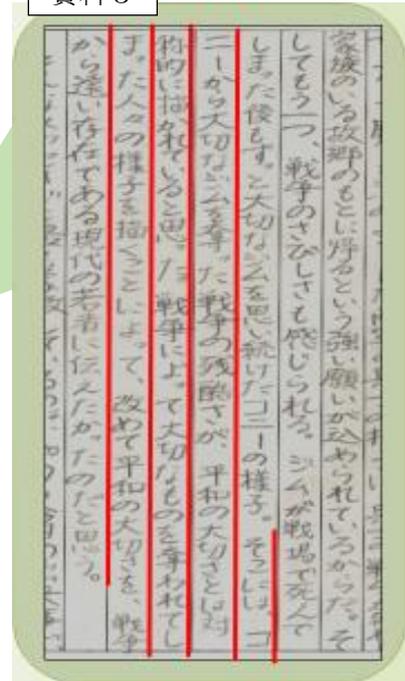
資料2

	％	％
手紙によって、大切な二人(僕とコニー)が出たところ。		
コニーはあんなにクリスマスに手紙を思い出し、クリスマス休戦も僕が手紙を...		
ムービーの構成にたづな、私たちのチームでは、僕がみんな、ことにより、何か変化し、誰かの時間が動き出したのか、その結果、動き出したのに対しては、ないのでは、ないかと、今、		
本々ではあまり、だが、コニーの年齢やクリスマスマモ時間に着目した。		

○【評価について】

資料3を書いた生徒については、「観察」と最終的な自分の読みが書かれた「ワークシート」の二つの評価材料でそれぞれ「十分に満足できる」(A) 状況と判断し、ここで評価を終えた。評価時期・評価材料・評価場面を整理したことにより、読みが深まっている状況をより個別的・具体的に捉えることができた。

資料3



【評価材料1】観察



- ・「おおむね満足できる」状況(B) 描写の効果, 登場人物の言動の意味について考えているかを確認する。
- ・「十分満足できる」状況(A) 作品全体を貫くテーマとの関係を踏まえながら考えているかを確認する。

【評価材料2】ワークシート



- ・「おおむね満足できる」状況(B) 根拠を明確にしながらか自分の考えをまとめているかを確認する。
- ・「十分満足できる」状況(A) 書き手の意図を踏まえながらか自分の考えをまとめているかを確認する。

また、ある生徒については、「観察」による評価ができなかったが、振り返りの中に、登場人物の言動の意味を考えていることがわかる記述があったため、「おおむね満足できる」状況(B)と判断することができた。言語活動に表れた状況や成果物での評価が基本ではあるが、時に、振り返りが適切な評価をする上で役に立つことが分かった。

評価計画の作成は今後も継続し、電子データ化して蓄積していこうと考えている。

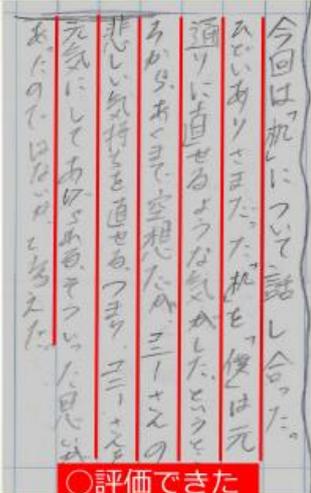
【評価材料1】観察



×評価できなかった

- ・「おおむね満足できる」状況(B) 描写の効果, 登場人物の言動の意味について考えているかを確認する。
- ・「十分満足できる」状況(A) 作品全体を貫くテーマとの関係を踏まえながら考えているかを確認する。

振り返り (ムービー作成時)



○評価できた